

第2次清水町都市計画マスタープラン（案）及び清水町立地適正化計画（案）に対するパブリックコメント（意見募集）の結果について

1. 意見募集の概要

募集期間	令和2年12月21日（月）から令和3年1月22日（金）まで
閲覧場所	都市計画課窓口、本町ホームページ
意見の提出方法	郵送、持参、FAX、電子メール
意見の提出先	都市計画課

2. 意見募集の結果

(1)意見提出者数 5人

(2)意見項目数 12項目

〈内訳〉

区分（都市計画マスタープラン）		意見項目数
計画全体		0
序章	都市計画マスタープランについて	0
第1章	清水町の現況と課題	0
第2章	全体構想	4
第3章	地域別構想	4
第4章	計画の実現に向けて	1
その他		0
小計		9

区分（立地適正化計画）		意見項目数
計画全体		0
序章	立地適正化計画について	0
第1章	まちづくりの方針	0
第2章	立地適正化計画の方針	0
第3章	都市機能誘導区域と誘導施設	0
第4章	居住誘導区域	0
第5章	都市機能や居住を誘導するための取組と今後の方向性	0
第6章	計画の評価・進め方	0
その他		0
小計		0

区分（都市計画マスタープラン及び立地適正化計画）		意見項目数
計画全体		3
小計		3

## 意見の概要と意見に対する町の考え方

No.	該当箇所	意見の概要	意見に対する町の考え方
1	都市MP 全体構想	なぜコアゾーン、地域の拠点づくりが必要なのか。	<p>人口減少・少子高齢化の進行により、生活サービスレベルが低下することが懸念される中、将来にわたりくらしやすさを維持するためには、都市機能や生活に必要なサービス等を集積し、これらを徒歩、自転車、公共交通で利用できるコンパクトな生活圏の形成が必要と考えます。</p> <p>このため、本計画では町の中心となるコアゾーンや、地域の拠点づくりを目指しています。</p>
2	都市MP 全体構想	コアゾーン、地域の拠点づくりのより具体的な計画内容は。	<p>本町の強みである「くらしやすさ」を維持し、さらに向上させるために、コアゾーンには魅力ある高次都市機能や生活利便施設をさらに誘導し、また、地域の拠点には、生活利便施設が集積していることから、その機能の維持向上に努めていきたいと考えております。</p> <p>さらに、公共交通によりコアゾーンと地域の拠点を結ぶことで、コアゾーンの高次都市機能の利用や、地域に不足する都市機能を町全域から他地域で利用できる環境を整えたいと考えております。</p>
3	都市MP 全体構想	それぞれの拠点を住民自身が交流の場所として使いやすいものにする工夫は。	まちづくりの実現に向けた取組の中で、地域の拠点を形成する生活利便施設や公共施設の管理者と検討を進めてまいりたいと考えます。
4	都市MP 全体構想	どのような都市機能や都市施設等を目指しているのか具体的に示してほしい。	都市機能及び誘導施設につきましては、生活するうえで必要となる商業・業務、教育・文化、医療・健康、金融、行政などの都市機能や誘導施設を位置付けております。

No.	該当箇所	意見の概要	意見に対する町の考え方
5	都市MP 地域別構想	(都) 玉川卸団地線の計画変更について、住民関係者への説明が徹底されていない。	(都) 玉川卸団地線の計画変更につきましては、説明会、公聴会、都市計画案の縦覧等を通じ、説明・周知に努めてきました。今後もわかりやすい内容により、情報提供等に努めていきたいと考えております。
6	都市MP 地域別構想	(都) 玉川卸団地線の整備に伴い、丸池川の整備、改修、用水の確保が保証されていない。	丸池川の整備は、(都) 玉川卸団地線と整備の目的が異なることから、その必要性を含め、個別の検討となります。
7	都市MP 地域別構想	(都) 玉川卸団地線の整備により、田畑が失われ、農業継続ができなくなるのではないかと懸念。  農業をつぶすだけの(都) 玉川卸団地線には、断固反対する。	(都) 玉川卸団地線は広域連携軸である国道1号と都市連携軸である(都) 西間門新谷線を結ぶ都市骨格軸として都市計画決定され、将来のまちづくりにおいて欠かせない、重要な都市施設であると考えております。  また、(都) 玉川卸団地線周辺地域につきましては、その立地条件を活かした土地区画整理事業による市街化区域編入を提案し、隣接する既存の公共施設や卸団地等の拠点を含むエリアと一体となり町の中心となるコアゾーンの形成を目指しているところです。  今後、事業化に向けては、事業区域、土地利用(ゾーニング)、営農に関する調整なども含め、関係者の皆さまとの合意形成に努めてまいります。
8	都市MP 地域別構想	未来を見据えた防災対策が必要。安心安全を第一優先とし、自然の保全、経済、住環境づくりに繋げていくべきである。  近年の大雨災害を考えるとコアゾーンの防災対策は水害に対して力を入れるべきであり、丸池川の整備は必須である。	コアゾーンの形成を目指す際には、安心安全を確保し、自然の保全、経済、住環境づくりに努めてまいります。

No.	該当箇所	意見の概要	意見に対する町の考え方
9	都市MP 第4章	“住民がまちづくりの主体”といわれても、これまでそのような参加方法を学んでいない住民は戸惑うだけ。セミナーやワークショップを通じてしっかりと意識を高めていくことが求められる。	ご意見を参考に、セミナーやワークショップ等の開催を検討してまいります。
10	計画全体	住民代表が含まれていないのはなぜか。	当策定委員会委員には、住民代表として一般公募により決定された町民が含まれております。
11	計画全体	計画の進捗管理・評価・見直しについて、PDCAでやることはいいが、計画をロジカルに立てられる専門家、また評価、モニタリングも定期的の実施できるような体制構築が必要と考える。	計画の進捗管理・評価・見直しにつきましては、専門家の意見を伺いながら、概ね5年ごとに、施策の実施状況等について、評価指標やモニタリング項目を用いて検証・評価していきたいと考えております。
12	計画全体	計画には具体的指標なども記入することが重要。	具体的指標といたしましては、「居住誘導区域内の人口密度」、「自動車以外の交通手段分担率」などを設定しております。